

1. 希望者は網膜硝子体学会へ『申請書』を提出する。
2. 申請テーマの採択は、常務理事会が審査して採否を判断する。申請後、概ね1か月以内で結論を出す。
  - 注1) 採否については、常務理事会に一任される。
  - 注2) 既に認められたテーマ・方法と重なりが大きい場合は、内容の調整を依頼するか不採択になる可能性がある。
  - 注3) 同じテーマがほぼ同時に出された場合（概ね1か月以内）、症例登録施設のものを優先する。
  - 注4) 症例登録施設間でテーマが重なった場合、登録症例数が多い施設を優先する。
3. テーマが正式に採択されたらデータを送付するが、以下のことに注意する。
  - 注5) データは決して他人や他施設に譲渡しないことを書面『誓約書』で提出した後に、データを送付する。
  - 注6) 申請したテーマ以外で解析を行う場合は、必ず申請書を出し直して新規テーマ解析許可を得る。
  - 注7) テーマ申請した責任者が移動・退職した場合は、申請組織が権利を保持する。
  - 注8) データが送付された日から約1年後に、解析の進行度を網膜硝子体学会事務局に報告する。常務理事会で解析が行われていないと判断された場合は、テーマ採択を取り消すこともありうる。これはテーマを採択された者が、権利を不必要に長期間保持して別組織の研究を妨げないようにするためである。解析が進まない理由が、「新しい解析のためにプログラム設計に時間がかかっている」「倫理委員会審査に時間がかかる」などといった合理的なものであれば、その限りではない。
4. 解析内容および結果については発表者が全責任を持つ。
5. 発表形式：著者に加える必要はないが、データ登録施設およびその関連者の名前を Acknowledgement などに必ず記す。
6. 現在、解析が進んでいるあるいは発表済みのテーマを以下に記すので、テーマの選定の参考にされたい。
7. 不明な点は、網膜硝子体学会事務局に問い合わせる。

#### 【参考】

論文投稿準備・投稿中あるいは発表済みのもの（敬称略）

- ①杏林大学 厚東 隆志「6か月後の網膜剥離の復位に影響する因子」
- ②千葉大学 馬場 隆之「6か月後の視力に影響する因子」
- ③山形大学 西塚 弘一「手術術式に影響する因子」
- ④鹿児島大学 山切 啓太「6か月後の成績に影響する術者の経験因子」
- ⑤鹿児島大学 坂本 泰二「このプロジェクトの概要と登録データについて」

現在解析中のもの（敬称略）

- ①九州大学 石川 桂二郎「裂孔原性網膜剥離術後6ヶ月以内の黄斑パッカー発生に関する危険因子の検討」
- ②慶應義塾大学 小沢 洋子「多焦点眼内レンズ挿入眼の網膜剥離の解析」
- ③滋賀医科大学 柿木 正志「裂孔原性網膜剥離における黄斑剥離のリスクファクターの解析」
- ④滋賀医科大学 小幡 俊平「裂孔原性網膜剥離の手術時の内境界膜剥離が術後6ヶ月での視力に与える影響」
- ⑤鹿児島大学 寺崎 寛人「眼軸が網膜剥離手術の治療成績に与える影響についての検討」
- ⑥鹿児島大学/倉敷中央病院 川野 純廣「傾向スコアによる、バックル手術と硝子体手術解析の比較」